

『みんなので止めよう温暖化』

今日からできる、地球にやさしいこと

～あなたのちょっとした気遣い、心がけが大切です～

深刻な問題となっている地球温暖化。この解決のため、世界各国が協力して作った京都議定書での、温室効果ガス排出量削減の約束期間にはいり様々な対策を進めてきました。2009年には日本の目標として、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年と比べて25%削減することが表明されました。温暖化防止は決して難しいことではありません。一人ひとりが身近にできることから取り組んでいきましょう。

地球温暖化

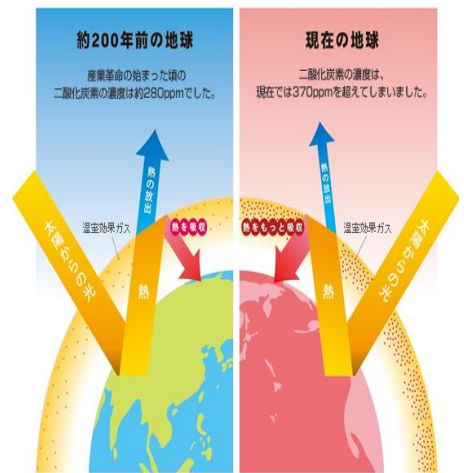
近年、世界各地でさまざまな気候の変化によってもたらされた自然災害が多く発生しています。国内でも「記録的」「観測史上初」などの言葉をよく耳にするようになり、1998年から2004年までの7年間に発生した異常気象は、国内だけで2,000件以上にのぼります。
(気象庁発表資料より)

この異常気象を引き起こす原因とされるものの一つに『地球温暖化』があります。地球温暖化は、温室効果ガスが過剰に増加することによって、地球が暖かくなりすぎてしまい、気候のバランスが崩れてしまう現象です。温暖化が進むと自然災害をもたらしただけでなく、生態系の基盤を脅かすという深刻な問題を引き起こします。

地球温暖化というと、規模の大きい話

◆温暖化による悪影響

異常高温・海面上昇・台風の強大化・生態系への影響により希少な生物の絶滅・水資源などへの影響や水不足の発生・熱帯性感染症発生の増加・気温上昇による穀物生産の低下や食糧不足など



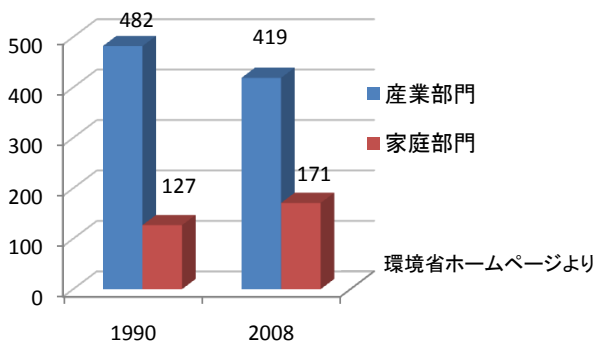
に感じますが、その影響は、とても身近なところにも現れます。例えば、世界各地で干ばつや大雨などの異常気象により食糧不足が海外に頼らざるを得ない。特に食べ物の影響がでるおそれがあります。この温暖化の主な原因となっているのが、私たちの生活から排出される二酸化炭素という温室効果ガスです。日本は、世界で4番目に多く二酸化炭素を排出しています。京都議定書では温室効果ガスを1990年と比べて6パーセント削減する事が義務づけられ様々な対策を進めてきました。

このような中、2009年9月、ニューヨークの国連気候変動サミットにおいて、日本の目標として、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年と比べて25%削減することを約束しています。

温暖化を防ぐには？

下の図のように、近年における二酸化炭素排出量の増加は、私たちの家庭生活が主な原因となっています。二酸化炭素は、ガスや灯油、電気や飲み水を作るとき、自動車を運転するときなどに排出さ

日本の産業部門と家庭部門における二酸化炭素排出量



日本の産業部門と家庭部門における二酸化炭素排出量を1990年と2008年で比較すると、景気悪化等による生産量の減少に伴い、製造業及び非製造業からの排出量が減少したことにより、産業部門では6,300万トン減少しています。しかし、家庭部門では4,400万トンも増加しています。

京都議定書

1992年の地球サミットにおいて「先進国は温室効果ガスの排出量を2000年までに1990年レベルに戻す」と国連の気候変動枠組み条約で目標を立てました。しかし、努力目標だったため、多くの国が守りませんでした。(日本も逆に6.9%増となってしまいました)

そこで、条約を補おうと議定書をつくり、先進国に法的拘束力のある数値目標を課すことにしたのが、1997年12月11日、先進国全体で5.2%削減する「京都議定書」です。削減義務は日本は6%、米国7%、欧州連合(EU)8%などで、削減の約束期間は2008年から2012年とし、対象は二酸化炭素やメタンなど6種類のガスとなっています。

未来が変わる。日本が変わる。 チャレンジ25キャンペーン

◆チャレンジ25キャンペーンが推進する6つのチャレンジ◆

チャレンジ1

☆エコな生活スタイルを選択しよう

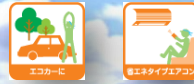
日々のちょっとした気遣いが積み重なれば、CO2削減の効果は大きく違ってきます。無理なく、そして無駄がない生活にチャレンジしていきましょう。



チャレンジ2

☆省エネ製品を選択しよう

省エネ性の優れた製品に買い替えると、電気代もCO2排出量も大きな削減効果が得られます。車はエコカーの普及により、CO2排出量、ガソリン代を大幅に抑えることができます。お財布にも環境にもやさしい製品への選択にチャレンジしていきましょう。



チャレンジ3

☆自然を利用したエネルギーを選択しよう

自然エネルギーの有効な活用は、未来の環境を守っていく上で必要不可欠です。エネルギーの自給率を上げることで、環境に優しく、安全で快適な社会づくりにチャレンジしていきましょう。



チャレンジ4

☆ビル・住宅のエコ化を選択しよう

新築、リフォームのタイミングは、家やビル全体をエコにする大きなチャンスです。住まいづくりを見直すことで、省エネだけでなく、快適で経済的な暮らしの実現にチャレンジしていきましょう。



あなたの
できることから
始めよう！！

チャレンジ5

☆CO2削減につながる取組を応援しよう

皆様が、CO2削減につながる仕組みや商品を選ぶことは、企業にとってCO2削減の大きな励みになります。1人1人がこうした商品の選択を心がけることで、環境負荷の少ない社会づくりにチャレンジしていきましょう。

チャレンジ6

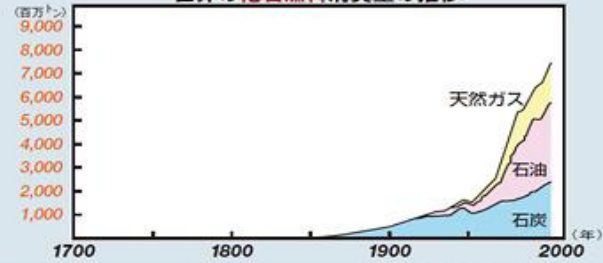
☆地域で取組む温暖化防止活動に参加しよう

地域で温暖化防止活動に参加する事は、環境への意識を高めるだけでなく、CO2削減にもつながります。楽しみながら、温暖化防止活動を体験する事で、会社や地域の仲間とともに、環境に優しい街づくりにチャレンジしていきましょう。

世界の温室効果ガス排出量の推移

世界の温室効果ガスは、ここ100年で大幅に増加しています。18世紀の半ばにイギリスで新しい技術が次々と開発され、「産業革命」が起きました。産業革命で最も大切な技術革新は、それまで人力や動物の力に頼っていた「動力」の変革でした。蒸気機関をはじめとする機械の動力を支えたのが、石炭、石油、天然ガス（LNG）などの「化石燃料」です。この化石燃料を燃やして得られる、エネルギーを大量に消費する豊かで便利な社会が世界中に広がっていき、そしてCO2がそれまでにない勢いで増え続け、人類は「地球温暖化問題」を抱えることになったのです。

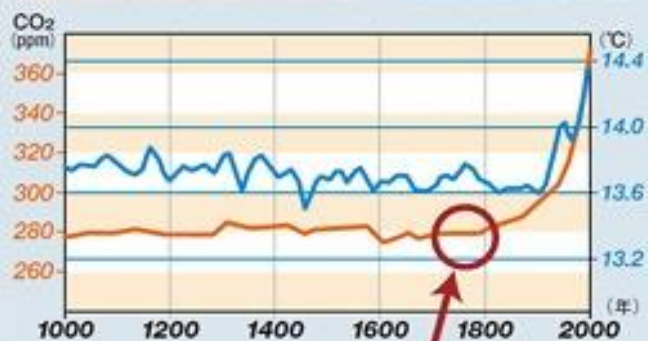
世界の化石燃料消費量の推移



出典：「環境白書平成10年度版」から作成

1000年間の大気中の

二酸化炭素濃度の変化(左めもり) 気温の変化(右めもり)

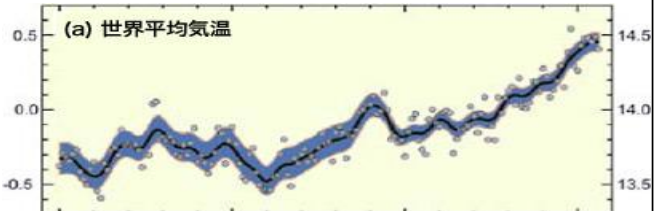


出典：気象庁「気候変動監視レポート2001」から作成

産業革命

世界の平均気温の推移

この温室効果ガス増加とともに、世界の気温も上昇しています。1906年から2005年までの100年間に、気温は0.74℃上昇しました。特に、1956年から2005年の50年間の気温上昇の傾向は、10年間に0.13℃上がり、これは100年間の傾向のほぼ2倍の上昇率に相当しています。また、20世紀後半の北半球の平均気温は、過去1300年の中で最も高温であった可能性が高いといわれています。



出典：AR4 SPM 図3